

2024年度  
(公社)日本地すべり学会 第63回研究発表会及び現地見学会

# 県民講演会

事前申込不要  
参加無料  
CPD2.0単位

事前登録なしで参加できる市民向け講演会です。多くのご参加をお待ちしております。

日時

令和6年  
**9/17** 火 17:00~19:00  
(開場16:30)

場所

仙台国際センター展示棟  
展示室2

## 第1部 17:00~18:00

『大雨災害から身を守る～防災気象情報の活用～』



講師

仙台管区気象台 気象防災情報調整官  
**鈴木 達也** 氏

略歴

山形県天童市出身。山形地方気象台採用。  
仙台管区気象台、盛岡地方気象台、福島地方気象台、仙台航空測候所などで勤務し、調査官、主任技術専門官、防災管理官等を歴任。  
2023年4月から現職。気象防災情報調整官として、防災気象情報の利用の促進、関係機関との連携・調整に努めている。



令和元年 阿武隈川の水害

大雨などの激しい現象は、土砂災害・洪水等を発生させ、命に危険が及ぶ状況となります。命を守るためにはどのような避難行動をとる必要があるのか、お住いの地域の危険箇所を含め日頃から認識しておくことが大切です。気象庁が発表する防災気象情報とその活用の解説を通じて考えてみましょう。

## 第2部 18:00~19:00

『災害の歴史性～宮城県阿武隈川流域の歴史から考える～』



講師

東北大学災害科学国際研究所  
歴史文化遺産保全学分野 准教授  
**川内 淳史** 氏

略歴

青森県青森市出身。2012年博士(歴史学)。  
神戸大学大学院人文科学研究科特命講師を経て、2018年より現職。  
専門は歴史学(日本近現代史、東北地域史、災害社会史)、資料保全論。『「生存の歴史をつなぐ:震災10年、「記憶のまち」と「新たなまち」の交差から』共編著、文堂出版、2023年、「(被災)の想像力:関東大震災と仙台・宮城」『被災学』1号 2024年3月など。



齋理屋敷(宮城県丸森町)

東日本台風(2019年)被災地である阿武隈川流域は、古くからの水害常襲地帯として知られています。自然災害は、自然現象が私たちの社会に広範な被害をもたらしますが、歴史的な社会の変化は、被害の様相を大きく変化させる要因となります。宮城県伊具地方(阿武隈川中～下流域)の災害の歴史を踏まえながら、災害の「歴史性」について考えてみたいと思います。

お問い合わせ

(公社)日本地すべり学会第63回研究発表会及び現地見学会 実行委員会事務局  
e-mail:landslide-tohoku@sendai.fgc.co.jp



主催：公益社団法人 日本地すべり学会第 63 回研究発表会及び現地見学会 実行委員会

後援：農林水産省東北農政局、国土交通省東北地方整備局、林野庁東北森林管理局、宮城県、仙台市、  
(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、(一社)日本応用地質学会東北支部、(公社)土木学会東北支部、  
(公社)地盤工学会東北支部、(公社)砂防学会東北支部、栗駒山麓ジオパーク推進協議会、宮城県砂防ボランティア協会  
協賛：(一社)斜面防災対策技術協会東北支部、(一社)東北地質調査業協会、(一社)全国さく井業協会東北支部、  
(一社)日本アンカー協会東北支部、(一社)宮城県測量設計業協会、(公財)仙台観光国際協会